

歴史探訪



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

ふたたび懐かしもの

保美町にあった昭和初期の煙突が、9月に惜しまれつつ壊されました。この高い煙突は、地域の人のランドマークとして親しまれてきました。製糸工場の煙突で、28メートルの高さがありました。当時のランドマークというより、産業振興の象徴でもあったと思われまます。

これまで、このような人工的な建造物、特に公害のイメージが強い工場場のは、あまり好まれません。むしろマイナスイメージすら



▲製糸工場の煙突(保美町/昭和16年)

あったかもしれません。しかし、人々の生活に溶け込んだこれらの「モノ」は、地域の近代化に貢献した遺産として、注目を浴びているのです。

これらの建造物は、高名な建築家がデザインしたのではなく、豪華な大理石で作られたものでもありません。むしろ、レンガやコンクリートなど、現在でいえば、あまり仕上げ材料としては高級なもので作られたわけではありません。しかし現代建築では、これらの素朴な質感をデ

ザインとして取り入れ、素晴らしい建築物が作られています。

昭和30〜50年代には、戦前の建造物がどんどん壊され、新しくされていきました。それは構造的な問題もありましたが、新しいものが良いという感覚があったからかもしれません。昭和28年、海岸の施設などが、13号台風でことごとく被害を受けました。残っているものは、建築物を除けば、主なものとしてセメント窯(明治)や伊良湖岬灯台(昭和4年)などがあげられます。そのほか、小規模なものも含めると、どれだけ残っているのかは分かりません。

和地町にある鉄砲橋は、その残っている数少ないものの一つでしょう。欄干が低い目立ちませんが、なかなか凝ったデザインをしています。表面は洗い出し加工がされ、細かな石で覆われています。東側の南面には「鉄砲橋」、同じく西側には「昭和五年七月架設」と陶板に記されています。コンクリート造りの橋は、損傷や表面の風化が激しく、当時の姿と履歴を読み取れるものは貴重です。また、デザインだけでなく、構



▲鉄砲橋(和地町)

造にも注目しなければなりません。まだまだ、皆さんの近くにこれらの遺産は埋もれています。ぜひ発見してみてくださいか。

※近代化遺産の定義は、近代化に貢献した土木や建築、交通、産業などに関わる建造物や施設のこと。

(増山)

今月の「表紙」

▼目の前に広がる伊良湖水道の大パノラマ。上空には、伊勢・志摩方面を目指し、羽ばたいて行くサシバの群れが。なかなか見られないこの眺めは、伊勢湾海上交通センターからの風景です。この施設では、5月と10月に一般公開が行われていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。(O)

【表紙の写真】伊勢湾海上交通センターからの眺望